

北般若だより

2025年(令和7年)3月1日
第336号
北般若自治振興会
北般若公民館

米穀情勢を聞く

『むらづくり講演会』が2月11日(火・祝)に戸出コミュニティセンター多目的ホールで開催された。この講演会は、戸出農業振興協議会が毎年行っています。

今年は、「米穀情勢について」を全農富山県本部の碓井養一副本部長、「持続可能な農業のために」を富山県高岡農林振興センターの梶原百愛普及指導員が講演された。

開会にあたり川原豊協議会長より「今年の気象変動に負けないくらい米価が動いた背景が何処にあるのかを講師より聴講していただき、新年度の米作を考えたい」と挨拶があった。

最初に梶原指導員より農家が持続可能な農業を行うために「富山県適正農業規範」に取り組



んで「農産物汚染や異物混入防止」「化学農薬・化学肥料の使用量低減」「農作業の安全確保や健康状態への配慮」などを進め、リスクが減る農業経営改善をしましょうと解説された。

次に碓井副本部長からは「令和の米騒動」でスーパーからコメが無くなった背景について詳しい説明があった。全国的な米の耕地面積や農業従事者数の減少と高齢化などにより今後も米騒動がおきる可能性をはらんでいる。富山県の米の評価は、8割が県外で消費され、まじめな県でしっかりお米を作り供給してくれているという。今後富山米に求められている事は「安定した供給」。年によって変わらない数量、気候によって変動しない高品質、需要に左右されない価格が挙げられ、目標数量の達成のための確実な面積の作付けや高温障害の少ない「富富富」といった品種への切り替えなどを挙げられた。

農家さんからはまだまだこの価格ではやっていけないとの意見があった。

中島清志さん着任

今年1月より北般若地区の農地利用最適化推進委員として吉住地区から着任しました。少子高齢化が進む中で農業の担い手の集積・集約化や遊休農地の発生防止及び解消、新規参入の方々の促進活動など中心に行っていく予定です。



皆様の周りの農地で担い手の方がいない、遊休の農地がある、農地を農地以外で使用していること等があれば皆様と一緒に解決していきたいと思います。

当地域の農業がキッチリと受け継がれるように農地の活用に尽力していきますのでよろしくお願い致します。

農地利用最適化推進委員 中島清志

トラック騒音やわらぐか？

昨年の半ば頃から、北般若を縦走する県道高岡庄川線を県外の大型特殊トラックが日中頻繁(多い時で5分毎)に往来することになった。能登半島地震などによる瓦礫の産廃処理と思われる。震災処理ゆえ我慢していたが、住民の方から騒音抑止の声が寄せられ行政に相談した。

公道なので通行の制限は難しいが、騒音を和らげるべく道路のクボミや段差や毀損箇所などを応急的に修復が良いのではとのアドバイスをもらった。



早速修復箇所10箇所を検分し県へ舗装部の段などの補修を要望し、3月頃に修復してもらえることになった。近隣の集落でも同様な声があることも伝え、対応するとの話も頂いているので、近隣集落も同様に働きかけてもらえれば幸いです。 西部金屋 高嶋信一

(株)とらいあんぐる 紹介

放課後等デイサービスを主として、令和元年11月に砺波市東石丸で設立し、翌年5月西部金屋に新社屋を建て移転して現在に至っています。

【放課後等デイサービスとは】

体に障害のあるお子さまや発達障害のお子さまを対象に児童福祉法に基づく障害福祉サービスの一つです。一人ひとりに合わせた支援計画を立て日常生活の動作の習得や集団生活をサポートします。自分のできることを増やし、学校や家庭以外の場所で新たな学びを通して、健やかな成長と社会的自立を目指していきます。



【サービスをうけられる対象】

主に小学校・中学校・高校に就学している6歳から18歳までの障害のあるお子さまです。障害者手帳を取得しなくても医師などから療育の必要性が認められた場合には、自治体の判断にて利用することができます。



【基本理念】

私たちは一人ひとりに合せ、家族の願いに寄り添い、自立と尊厳のある暮らしを支援し、一人ひとりに適した療育をしていきます。また地域の方々との交流や、ボランティア活動の呼びかけを行い地域へ貢献します



【12月 こども食堂を開設】

地域に限らずお子様からお年寄りまでどなたでも利用できます。冬の間(1月～3月)は、お昼11時半～14時まで開催しています。皆さん奮ってお越しください。 戸出西部金屋 ☎0766-92-0731 代表 伊藤則子

考古学から見る北般若

2月16日、北般若公民館で文化講演会を開催いたしました。この冬一番の大寒波から解放された穏やかな天候に恵まれましたが、各地区での行事と重なり27名参加の少しこじんまりとした講演会になりました。

演題は『となみ野の地歴から窺う北般若地区』。となみ散居村ミュージアム館長の安念幹倫氏に専門の考古学の視点からお話を伺いました。



演題の地歴は、地形と歴史。古文書や文献では証明できないものが考古学で証明できるという。北般若地区の位置や砺波平野の形成、水と戦った先人たちや川の変遷。庄川は大洪水を引き起こすも、豊かな土を運搬し私たちに恵みをもたらしてきた。普段、私たちが何気なく生活しているこの砺波平野の散村地域は、地理学だけでなく歴史学や民族学・建築学などの諸分野からも長年にわたって多くの人々が注目してきた地域だという。

これからも地域の歴史や文化・伝統・工芸などの公民館だから提供できる講座を開催し、私たちが住んでいる北般若のことを知る機会にしたいと考えています。

北般若公民館 主事 青島幸子

『木曾義仲』文化講演会

【3月16日(日)pm2:00～】北般若公民館ホール
演題 〈戸出と馴染みのある義仲の足跡を辿ります〉
『猛将 木曾義仲～俱利伽羅峠に想いを馳せて～』

北般若地区等の動き

- 3/2 eスポーツ三世代交流会
- 3/13 戸出中学校卒業式
- 3/16 北般若公民館 文化講演会
- 3/17 戸出東部小学校卒業式
- 3/23 各集落の江ざらえ
- 3/27 なのはな元気教室

